

議会報告会実施報告書

開催日時	令和5年 11月 25日（土） 14時00分 ～ 16時00分		
会 場	日進市民会館 小ホール・展示ホール・研修室	参加人員	41名
出席議員	20名（全員出席）		

役 割 表

	担当名	氏 名		担当名	氏 名
1	司会	小野田利信（副議長）	12	第2部 総務文教委員会 進行係	川嶋恵美（総務文教委員長）
2	開会あいさつ 趣旨説明	大橋ゆうすけ（議長）	13	第2部 福祉厚生委員会 進行係	加納やすこ（福祉厚生委員）
3	第1部 総務文教委員会 報告者	吉野ゆうと（総務文教委員）	14	第2部 市民建設委員会 進行係	武田治敏（市民建設委員）
4	第1部 同報告補佐 (PC) 係	舟橋よしえ（総務文教委員）	15	第2部 総務文教委員会 記録係	ごとうみき（総務文教委員）
5	第1部 福祉厚生委員会 報告者	ゆきむらともこ（福祉厚生副委員長）	16	第2部 総務文教委員会 記録係	田中とおる（総務文教委員）
6	第1部 同報告補佐 (PC) 係	小出あさこ（福祉厚生委員）	17	第2部 福祉厚生委員会 記録係	山田久美（福祉厚生委員長）
7	第1部 市民建設委員会 報告者	白井えり子（市民建設委員）	18	第2部 福祉厚生委員会 記録係	中島まなみ（福祉厚生委員）
8	第1部 同報告補佐 (PC) 係	岩淵晃久（市民建設副委員長）	19	第2部 市民建設委員会 記録係	水野たかはる（市民建設委員長）
9	受付係	大屋よしお（総務文教副委員長）	20	第2部 市民建設委員会 記録係	岩淵晃久（市民建設副委員長）
10	受付係	坂林たくみ（市民建設委員）			
11	受付係	島村きよみ（市民建設委員）			

責 任 者

1	総括責任者	大橋ゆうすけ（議長）			
2	設営責任者	福安淳也（議会運営委員会委員長）	4	進行・庶務責任者	小野田利信（副議長）
3	場内責任者	福安淳也（議会運営委員会委員長）	5	記録責任者	山田久美（福祉厚生委員長）

○報告事項に関する質問と回答

内	別添のとおり
容	

○意見交換会

内	別添のとおり
容	

令和6年1月10日

日進市議会議長 様

日進市議会報告会実施要綱第7条の規定により提出します。

記録責任者 山田 久美

第12回 日進市議会報告会

日時：令和5年11月25日（土）

午後2時～午後4時

会場：日進市民会館 小ホール

1. 開会あいさつ

2. 【第1部】委員会報告

(1) 総務文教委員会

テーマ「DX推進で市民の暮らしはどう変わる？」

(2) 福祉厚生委員会

テーマ「重層的支援体制整備でどう変わる？」

(3) 市民建設委員会

テーマ「持続可能なまちづくり」

～脱炭素社会の実現に向けた取り組みについて～

— 休憩・移動 —

3. 【第2部】質疑応答・意見交換会

委員会ごとに会場を分け、第一部で報告したテーマに沿った質疑応答や意見交換を行います。

委員会	会場
総務文教委員会	展示ホール
福祉厚生委員会	研修室
市民建設委員会	小ホール

4. 閉会あいさつ

～日進市議会の構成（委員会）～

議長 大橋 ゆうすけ
副議長 小野田 利信



名称	議会運営委員会
所管事項	議会の運営に関する事項、議会の会議規則、委員会に関する条例等に関する事項、議長の諮問に関する事項についての調査や協議、審査をします。
委員名	委員長 福安 淳也 副委員長 川嶋 恵美 委員 岩渕 晃久 委員 坂林 たくみ " 島村 きよみ " 武田 治敏 " 舟橋 よしえ " 水野 たかはる " 吉野ゆうと

□常任委員会

委員会名	所管事項	委員名（◎委員長 ○副委員長）
総務文教委員会	企画部・総務部・教育委員会の所管に属する事項（市政全般の企画、行政評価、広報広聴、財務、市税、防災、学校、給食、図書館、社会教育等）及び他の常任委員会の所管に属さない事項についての調査や審査をします。	◎ 川嶋 恵美 ○ 大屋 よしお 小野田 利信 ごとう みき 田中 とおる 舟橋 よしえ 吉野 ゆうと
福祉厚生委員会	健康福祉部・こども福祉部の所管に属する事項（国民健康保険、検診、予防接種、障害者福祉、生活保護、介護保険、保育、子育て、福祉会館等）についての調査や審査をします。	◎ 山田 久美 ○ゆきむら ともこ 大橋 ゆうすけ 加納 やすこ 小出 あさこ 中島 まなみ
市民建設委員会	市民生活部・建設経済部・農業委員会の所管に属する事項（市民協働、人権、公共交通、防犯、ごみ、環境、都市計画、景観、緑地、道路、橋梁、河川、公園、区画整理、下水道、浄化槽、開発、耐震、労働、商業、工業、農業等）についての調査や審査をします。	◎ 水野 たかはる ○ 岩渕 晃久 坂林 たくみ 島村 きよみ 白井 えり子 武田 治敏 福安 淳也
予算決算委員会	一般会計、特別会計の予算及び補正予算、決算についての調査や審査をします。	◎ 小野田 利信 ○ 福安 淳也 他 18 名 ※全議員が委員になります。

□協議会

協議名	所管事項	会員名（◎会長 ○副会長）
広報編集協議会	議会広報活動に関することについての調査や協議（市議会だよりの発行）をします。	◎ 坂林 たくみ ○ 小野田 利信 大屋 よしお 中島 まなみ

第2部 市民と議員の意見交換会

総務文教委員会 テーマ「DX推進で市民の暮らしはどう変わる？」

◇質問 ◆答弁 □要望・意見（参加者） ■要望・意見（議員）

正規教員の増員が必要

□資料5 ページ「DX推進で市民の暮らし（子どもたちの学び）はどう変わる？」資料の右側「学校教員の負担が減る」ということは、とんでもない。

学校では、DX化によって抱える範囲、情報量がとっっても多くなっている。今までは、教材とどこに限ってということだったが、健康状態、家族の状態、あと個別の情報などの対応も必要になった。中学校の報告によると、管理と更新等含めて、1日に1.5～2時間かかっている。県立高校では、2学期から評定を全て機械でするようになった。しかし、非常に効率が悪く情報化の専門教員が立ち上げるのに5時間かかっていることも。DXによって起るリスクも十分に考えて持続可能な施策をお願いしたい。

そこで提案。正規教員の増員必要。日進市でも、教員不足で、美術の評定なしという中日新聞の記事（2022年6月）もあった。

個人的な経験だが、名古屋市のある中学校では、13クラスの3学年で講師は1人もいない。常勤講師が2人。非正規は1人もいない。

しかし、日進市は公立中学校で昨年度17名の非常勤講師がいる。この差はどういうことか。子どもたちの学びがかかっている。ぜひ、正規の教員数を増やして頂きたい。

DXのデメリットをどう考えるか

◇DXのデメリットは何かということ。例えば、名古屋市で安いパソコンを購入してトラブルが発生している。日進市でも同じような現象が起きないか。

また、セキュリティは絶対に破られる。どこまで対応できるか。

先ほど先生が足りないと言われたが、生徒と「どうして間違ったのか」という会話ができないのは困る。

◆デメリットは必ず出てくる。セキュリティは、破られ、補正してという繰り返し。

行政のDX化が本当によいのか、考えてチェックするのが議会の仕事。

今回の研修で、現在このような技術が世の中にあるということは確認できた。これをどのように見るか、自分たちの中で成熟させていく必要があるし、前のめりになることは避けた方がいいと思う。

- ◆人とのコミュニケーションは大事。「欠席」と配信すれば、学校に届く。朝の電話はないが、子どもの中学校だと、夕方に先生から電話がある。一人ひとりの子どもと向き合えるような教員増の体制が必要だ。
- ◆学校の欠席連絡をアプリで送れるようになり、インフルエンザ流行時でも、瞬時に欠席数がわかるし、電話対応の負担軽減にもなっていると聞いている。そのフォローとして、夕方に電話をしたり、連絡帳をやりとりしていると思う。

D X推進の目的、優先、デジタルデバイドの解消について

- ◇1 つめは、D X推進の目的について。D Xは手段であって目的にはならないと思うので、何がしたいのか、お聞きしたい。
- 2 つめは、優先度について。D Xによりできることの何を優先にしたいのか。
- 3 つめに、資料 8 ページ「デジタルデバイドの解消」の方法、具体的な検討は。

- ◆D X推進の目的、例えば、日進市の「待たない書かないスマート窓口」に関しては、住民票発行時の待ち時間短縮が目的。また、職員の負担を減らすことにより、他の行政サービスに細かな対応ができるのも目的。個々によって目的は違うが、市民の利便性向上と、行政側の効率化が、特に行政D Xの目的だ。

優先度に関しては、セキュリティなどもあり、できるところからやっていく。とりわけ日進市は、デジタル田園都市国家構想の補助金で対応できる、スマート窓口などを進める。予算が出ない分野は、優先が後になることもあるだろう。

デジタルデバイド解消については、スマートフォン利用に、ソフトバンクのCSR事業でサポートしている。また、スマート窓口を使う際、最初の導入時に市の職員が丁寧に説明し、利用できるよう対応する。議員としては、提案やチェック体制を含めてみていく。

- ◆デジタルデバイドは一人ひとり違う。持っている物が違う、通信の環境がないなど。困った時にその意見を出すことが、まずは解消のための一歩。出された意見を次はこうしよう、と提案していくのが議会や行政の役割。市民会館も、「Wi-Fi 入れてほしい」との声があり、改善してきた。

- ◆日進市は、国がD X推進をかける前に、ICT推進の基本方針というのを定めている。その中で、いわゆる Society5.0 と呼ばれる通信技術、ICTを取り入れることで、社会課題を解決していくという方針がある。近藤市長は、日進市がD Xのトップを走る自治体を目指したいとこともあり、特に取り組んでいる。

田園フロンティア国家構想の交付金（全額国費）でスマート窓口や、明日（2023年11月26日）の避難所開設運営訓練でのLINEアプリ活用など、今年度中に5つ計画あり。国が推進しているので、日進市でも進めている。それで本当にいいのかどうかを議会、

議員としてみていく。

デジタルデバインドに関して、具体的には、マイナポイントでは、苦手な方には人を配置して対応した。国も ICT に詳しい人をつければ、交付金を出す。人を配置するのが方針。

- ◆デジタルは手段で、目的は市民が住みやすくなるため。書かないスマート窓口はよい。例えば、窓口で同じ名前と住所をいろんな書類に書かないといけない。高齢の方は手が震えて書けない。代筆もできるが、最後の名前は本人の記入が必要ということもあった。スマート窓口であれば、入力すれば全部の書類に情報が転記され、市民にも職員にも負担減となる。また、マイナンバーカードをかざすだけで入力も不要というのがある。

市民の要望からどう変えたいのか

◇この問題の立て方について「DXで市民の暮らしはどう変わる？」ということが視察のテーマになっているが、市議会としてどういうふうに市民の要望があって、DXを使ってどう活かしていくのか、という観点で視察をしてもらわないと、非常に受け身になる。目的と手段がひっくり返っている。どう視察の時に考えていたのか。

- ◆視察は、今のデジタル技術がどこまで進んでいるかをみるため。住民票発行に以前は窓口で30分かかったが、今では10分ぐらい。コンビニだと30秒。デジタルの進歩を確認し、また3年後はどこまで進んでいるのか、その先はどうか、それを行政にどう活かしていくか、ということで視察に行った。この次、人口減少となる。それをどこで誰が補っていくのか、ということを考えると、やはりこのデジタル、ロボット、に行きつくのではないか。

LINE情報の活用を

□資料の6ページ「災害時にLINEを用いた必要情報の提供」とある。

赴任先の富山市はLINEを使って、市からの情報が来る。まずは、基本登録をして、自分が知りたい分野をチョイスしておく。「熊がでました」とか、複数の情報をとるように登録しているので便利。

導入にはお金がかかると思うが、市民が望んでいるかどうかわからない建物とか、個人的に「ムダ」使いだと思えるものもあるので、そういうお金を使ってもいいと思う。

もう1点、正規の先生を増やしてほしいとあったが、私も大賛成。財源が必要なので、そういうところに「ムダ」なお金を使っていたきたい。

あと、そもそも先生がやっている仕事の中で、外部委託ができる仕事があるのでは。実際に教えることに時間が割けないというのがあるので、いわゆる作業的なことはアルバイトの人でもいいと思う。社会福祉協議会を通じてボランティアの要請が日進中学校からあり、第2グラウンドの草取りをやりに行った。学校から「こういう作業があるんで

やってください」と発信すれば、先生の余分な仕事も軽減できるといいな、と思う。

- ◆LINE での情報は、日進市でも導入されていて、ゴミ出しや、イノシンがでた、という情報なども届くので、ぜひ活用を。

あと、ボランティアの呼びかけは、日進市の学校は全部アプリを使って保護者との連携網があり、「草取りボランティア募集」なども発信されている。また、学校に所属していない方にはアプリがないので、各区の回覧板で連絡している。

- ◆LINE については、今年度3月までに、かなり拡張されると情報広報課から聞いている。みなさんの選択した情報をもっと細分化されるようになるとのこと。

また、先生がやらなくてもいい仕事については、DXの話につながってくる。例えば、手書きで「席替え表」をつくっていた、パソコンでつくれば早くなるし使い回しもできる、アプリを導入することで、職場の仕事を減らしていくことができる。

議会の一般質問でも、掃除の部分を業務委託というかできないか、という話もあり、「重要である」という答弁もあった。しかし、お金がかかる。しかも、やり始めたらこれはもう半永久的にやることになるので慎重にならないといけない。

- ◆南小と赤池小の避難所開設運営訓練で、ソフトバンク社のデジタル防災サービスの体験ができる。LINE アプリを入れると、災害情報、避難所の開設情報、危険な場所等が届く。災害時には避難ルートも標示される。通常は防災マップなど防災コンテンツの閲覧ができる。

日進市とソフトバンク社は「持続可能なまちづくり、地域活性化に関する連携協定」を交わしている。コロナ禍では、ソフトバンク社から、市民会館など2カ所に自動の検温機の無償提供を受けた。連携協定をしている部分で、ソフトバンク社の様々なものを日進市が取り入れている。

ソフトバンク一色でいいのか

- ◇通信業界がすごく競争している。日進市が、ソフトバンクになったら他の機種が使えないとか、マイクロソフトが乗り込んでくるとか、業界の全国展開に巻き込まれるのでは。一色にするのはおかしい。タブレットもそう。思考が一定になる。算数の解き方も全員同じ解き方になる。

- ◆違う会社のサービスを使うと、そのサービス同士の連携ができなくなるので、逆に使いづらくなるかもしれない。例えば、粗大ゴミはこのアプリ、学校出席連絡はこのアプリ。情報はLINEのこれに登録必要など別会社だと使いづらくなるかも。一定程度まとめる方が使いやすいと思う。ただ、日進市に関して、粗大ゴミ、スマート窓口、選挙の投票入場の受付サービスなど違う会社がやっていく。一つの会社だけにはならない。

マイナンバーカードの紐付け不安

□マイナンバーカードの事業だけでもきちんとチェックがないので問題がでている。あれだけの巨大データを一括でやるのは絶対に無理。あと、病院でもマイナンバーカードが保険証としてやるが、端末の問題など小さい病院などはできない。一番下のレベルにあわせないと、マイナンバーカードの意味がない。

銀行口座とかいろんなものが紐付けされているが、もう恐くてしょうがない。名古屋銀行や愛知銀行は記帳できていた大型スーパーなどでもできなくなり、大変不便。また日進の場合、UFJ銀行は平針まで行くことになり本当に不便。

ついていけなくなる。一市民の声として

◇そもそも、DXの「X」とは何でしたか？

◆トランスフォーメーションです。

□全然わからなかった。せめてスペルを書いてもらおうと多少理解できるかも。私はギリギリ、LINEとかアプリとかはついてける。次に移っていくと私たちもついて行けなくなる。ついて行けなくなる人達に手を差し伸べる心づもりがあるのかどうか。

子どもたちに全員タブレットを配布するなら、我々にもそれぐらいの支援がほしい。

マイナンバーカードは破綻すると思っている。住基ネットも終わった。私は、マイナカードを作っていない。今、何も困っていない。これだけの巨額の税金を投入して、破綻したらどうするのか。一市民の声だと思って頂ければありがたい。

学校のタブレット、家でYouTubeを見ているが

□学校のタブレット、子どもたちが持ち帰り、家でYouTubeを見る。友だちの親も先生に「何とかして下さい」と言ったら「みんなからそう言われる」と。タブレットにすぐ予算をかけたが、使いこなせないのでは意味がない。持って帰ってこないでよ、と思う。子どもが通う学習塾は、勉強の所しか見れないシステムで、たまに優秀な子がロックを解除して違う物をYouTubeで見たりすると、塾の本部に連絡がいき、呼び出されるというシステムまである。ここまでやって貸すならいいが、何か上からの伝達で、タブレットをみんなに渡したが、遊びにしか使わないのがちょっとどうかな、と思う。

タブレットより先生を増やしてもらった方がよっぽどうれしい。あとインフルエンザが流行っていて、しょっちゅうお休みなので、DXというのであれば、オンライン授業とかの検討を。また、そもそももっと感染対策を。空気清浄機を入れて感染対策をして学校に安全に行けるようにしてほしい。

◆学校のタブレット、規制はかけられる。学校でチェックを一斉にやっていないから、家庭に任せている部分があると思う。規制をかけることができるので、試してみてもいい。

□それ、格差で、私にはできないと思う。

◆市の方でカバーできれば。学校の方で一度講習会を行なうとか、考える時だと思う。一方で、タブレットを使って学習意欲がわいたということもある。

あと、コミュニケーション能力に自信がないお子さん、意見が言えないお子さんがタブレットを使うことで意思疎通ができたりもする。

学校の方で保護者を集めてデジタルデバイドの講習会がもし開けるのであれば、それは私たちの方からまた提案していきたい。

□ネットモラルを子どもたちに教えてほしい。タブレットは、国の税金で貰っているんだよ、遊ぶための物じゃないんだよ、YouTubeばかり見てんじゃないわよ、と言ってもらえると。そういうのも併せて案内してもらえると嬉しい。

■先生に言ってもらうのが一番かな。そういった働きかけも、我々議員の仕事だと思う。

■これから ChatGPT みたいな生成 AI も、使い方によってよくもなったり、正しくないことを使ってしまったりもあるので、これからは自分で正しいことを選んでいかないとけない時代。そういう学習は本当に必要だと思う。

■先ほどの「みんなそう言っていて、先生も困っている」というのであれば、本当にそうだと思う。ICT を学校に入れるとき、専門家を学校に配置してほしいと議会でも言った。今、子どもや保護者、先生が困っていることを出し合って、専門家の力も入れて1つひとつ解決していくことが必要だ。

また、DX をやるから業務が減って先生を減らしてもいいということは違う。より感染対策をして安全な学校をつくるかということになるとそれなりに力もいるので、DX の推進と必要な教員数は切り離して考えていくことが大事だ。

■つくば市の教育は「探求」がテーマ。子どもたちが自分で課題を見つけて問題をつくり、その問題に対して自分なりにどういうアクセスをして解決策を探っていくのか、そのためのツールがデジタルです、タブレットです、オンラインでの専門家の授業です、という話があった。デジタルに頼りすぎない、あくまでツール、と非常に強調されていた。

「YouTube みすぎる」という話を聞いたときに、つくば市の子どもたちはそれを自分たちで考えるのだろうか、とイメージがわいた。つくばの教育には、それを感じさせるものがあった。つくば市の教育は、対面で先生と子どもの交流時間もかなり重要視されていたので、バランスは取られていると感じた。

委員会7人のメンバーで視察のこと、今日の報告会のみなさんの意見も踏まえながら、

できるなら「提言」にまで結びつけられればいい。「提言」までいかななくても、私たちの中で日進市におけるDX推進の課題や、進める部分など、より深めていきたい。

公共施設のWi-Fi

- ◇公共施設はWi-Fi使えるか。福社会館でWi-Fiの使い方を教わったが、使えなかった。災害時に避難所ですぐ使えるのか。年配の方達はWi-Fiが家に無い方もたくさんいる。
- ◆市の公共施設には基本的にはWi-Fiはある。ただ、市役所とか福社会館は、あいちフリーWi-Fiの契約で15分もしくは30分で切れる。さすがに使いづらいと要望を出したところ、「次は、とぎれない契約で進めていく」という回答をもらった。

デジタル難民になるのでは、という不安

- 私は、今らかデジタルをやろうという気がない。LINEも登録していない。その情報がどこまで正しいのか、判断する自信がない。「次をクリックしてください」というのをクリックするととんでもない所に飛んで、事件に巻き込まれるかもしれないので。私は多分デジタルが進んでも窓口対応でお願いしていく。自分がデジタル難民になるのでは、という不安がある。
例えば、災害の情報をLINEで流すという環境になっても、私は災害の情報を知らないで一人となる。障害のある方、耳が聞えない方、知的に障害がある方みんなに、市からの情報がデジタルを使わなくてもきちんと届く、安心してらせる街にしてほしい。デジタルを進める一方で、難民になるのではと不安を抱えている人がいることを議会でも取り上げて、みんな平等にしてほしい。
- 本当に貴重なご意見。障害の方も、LINEを使わないという方もいるので、誰一人取り残さないために、生活と命を守るために、私たちもしっかりと意見をいっていく。

DXのリスクなどアンケート調査などであきらかにして

- 学校の現場、先生がこの問題に対してどういうリスク、デメリットを感じているのか、具体的に分かるようにしてほしい。同じく行政職員も、DXで行政が簡素化されて便利というイメージだが、現実にはいろんな矛盾を抱えていると思う。逆に労働強化につながっているという面もあると思う。それを、個人の保護を前提とした上で、職員自身の本音を聞ける、アンケート調査など、独自でやって、DX全体のメリット、デメリットがイメージできるようにしてほしい。

以上

第2部 市民と議員の意見交換会

福祉厚生委員会 テーマ「重層的支援体制整備でどう変わる？」

◇質問 ◆答弁 □要望・意見（参加者） ■要望・意見（議員）

◇私は今 50 歳で 8050 問題に関心があります。今の日進市には、8050 問題に該当する世帯は何件あるのか。

◆見えにくい部分もあるため、数字は把握していない。

◇現状では 8050 問題があったとしても、本人の申し出がなければ近隣住民等が介入することが難しいと聞いている。重層的支援体制整備事業が始まると何が変わるのか。

◆個人情報保護法が優先されるため、市役所の部署間においても連携が取りにくいのが現状だ。課題を解決するための事業となることを日進市も目指している。また、地域の方から専門家へつなぐことも考えられるため、住民参加も必要と考えている。

◇福祉関係のチラシ等を見ると、全て「社協・ケアマネージャー」にご相談くださいと書いてある。市役所としては何をしているのか。

◆高齢者の方においては、ケアマネージャーが窓口になることは多いと考えられるが、地域包括センター、障害者相談支援・子育て世代包括支援センター、こども家庭総合支援センターがあり、様々な世代や相談に対応している。特に、市役所のくらしサポート窓口では総括的に相談を受け、関係機関へつなぐことをしている。

□現在、息子が障害者で義理の母とも同居している。10年後、私が57歳、息子が18歳、義母が84歳となり、ダブルケアラーになることを想定している。義母は介護認定を受けてサービスを利用しており、息子は障害者手帳があるため、様々な支援を受けている。このような中で私自身が何か困った時に不安になる。10年後までには重層的支援体制整備事業を整えてもらえるように期待している。

■日進市が重層的支援体制整備事業を進めていくので、議員一同、その思いを受け止め、皆さまの声をしっかり聞いてもらえるよう活動していく。

◇核家族化や地域のつながりの希薄化と血縁や地縁に頼らないとあるが、新しい結びつきというのが重層的支援体制で今年初めての取組なのか。色々な事を課題にされている

が、どうなっているのか。「一生懸命やります。頑張ります」と言っても結局そうなおらず、経過や進捗状況が分からない。頑張っているのか、頑張れないのか、頑張らないとできないのか、できるのか、たまにでも良いので知らせてもらえると進んでいるのが判断できる。また、報告によって10年後はどうなるのか、10年前はどうだったのかが分かるため、真剣にやってほしい。

◆今どのように進んでいるのか、見える化は本当に大事だと思う。国が進めている事業について、各自治体に取り組んでいなければ結局意味がないということで、今回このテーマを選んだ。私たち議員も市民の一人として、当事者意識を持って今後も活動をしていく。また、日進市も重層的支援体制整備事業に関して進めるということなので、注視していく。

◇東海市に視察に行かれたということですが、令和3年度より実施しているのですね。2年間経ってどのような感じだったのか。

◆窓口が日進の方では「暮らしサポート窓口」をきっかけに一緒に進めていきたいという思いで進めていこうとしている。東海市の方は、逆に公営の部分の窓口が主体となって展開をしていた。自治体によって窓口となる場所は、各市町で違っていきのかと実感したところである。

◆東海市は知多地域なので日本福祉大学の流れがある。また、地域包括ケアシステムは国の方でも重層が始まる前からあり、そういうのをやっけていこうという流れで「0から100歳まで」というテーマに、元々取り組みが進んでいたところに、重層に切り替えて導入ということになった。そこが日進市とは土壌が違い、地域包括ケアの取り組みが大分進んでいるところに東海市の場合は重層を入れた。日進市はまだ、地域包括ケアがそれほど進んでいないが、重層を取り入れていこうというイメージと思った。

◇自分たちの子どもの頃と比べてみて今の社会はどうか。これに対応するのはすごく難しいかもしれないが、なぜこのようになるのかということ認識して、国もこのような行政を知ればいろいろな施設に役立つ。建物を建てる、公園を造るとかではなく、50歳では教育指導しても簡単には治らないし、時間をかけるのならもっと将来に向けて子ども対象に健全に育てることに国も最重点を置くことが大切。

新聞に登校拒否の子どもが50万~70万人もいるという記事は大問題だ。日進市は問題ではないのか。少なくともこのような子どもを無くさないといけないので、対応してほしい。

◆いろいろなものが関連しているというこの視点、科学的な発想ができる人が必要と考えるため、しっかりと受け止めていく。

□今回の選挙で女性議員が増えたことは喜ばしいが、福祉厚生委員会となると「女性」ということになるのか男性議員は一人だけ。もっと男性が福祉厚生をやりたいとコミット

すべきだと思う。職業や役割の性による固定化のようなことが、今の日進市を切り取って反映されているような気がして残念だ。

居場所を見つけられない子ども達、80歳の親にしがみついて引きこもりになる人間を作ってしまう社会。これが原因とは特定できない。だからこそ重層的なフォローが必要だと思う。

単に情報を共有するとか、つないでうまく仕事として処理していくことだけではなく、現代の日本に問題点があると思うので、そこを見つめながらやっていくことはすごく難しいが、議員も問題意識や課題感を持って取り組んでほしい。

□私の所には障がい児がいて、今私は40歳なので4070だ。子どもには姉弟がいて、良く面倒を見てくれているが、「あなたたちが死んだら私が面倒をみなくてはいけないのでしょ」と、ときどき爆発する。親としてみっともなく恥ずかしいけどそれが現実だ。「そんな風にしなくてもいい。自由に結婚を」と言っても結婚しないままにいる。仕方がないと思いつつも、社会的なセーフティネットはないものかと。だから障害児の兄妹もそれなりの悩みを持っていると思うので、そのような人たちにも手を差し伸べることもできる社会や自治体を構築していけるようにしてほしい。

■福祉厚生委員会については、女性だけでなく男性の目線も必要だと思う。

核家族ゆえに相談する場所がなくなってきているという社会や家族構成での問題は多岐にわたるといえる実態をお聞きし、市町によって窓口の違いになってくるのだろうと思った。

日進市がなぜ「くらしサポート窓口」から発展させようと考えているかに関しては、お金の問題をまず受けるのがこの窓口だからであるが、そこだけでは終わらない家族構成や解決ができないところを各部署に相談しなければならなかったということだ。

障がい児の姉弟に関してはお金の問題もあるため、相談できる窓口がないと親亡き後のことを考える上で、まち全体でセーフティネットを構築できる日進モデルとしてこの重層が形になっていくと良いと感じる。

■学校教育課と連携し地域全体で子ども達を見守り、引きこもりの子どもを減らしていくように今後体制を整えていくため見守ってほしい。

■東海市では10年20年かけてでもこのケースを共有できる体制が重層的支援体制だと言っていた。一旦解決したように見えていたものであっても、資料は処分すべきタイミングが来るのが望ましいとのことだった。

本市の場合においても1度来て終わりではなく、この垣根をなくせるのがこの制度の良いところであるので、先例である東海市をはじめ、各自治体の良いところをとって何が課題なのか共有する。

◇5、6年前は日進市の障害者団体連絡協議会のメンバーとして呼ばれていたが、今もあるのか。

地域の中に民生委員がおり高齢者への様々な支援サポートをする中で、障害者の方への支援もしているのか。私たちは孤立したような状態である。窓口で専門の方が見えず、障害者が相談に行ける場所についてどのように考えているのか。

◆民生委員の方たちが地域において高齢者、障害者の方達へのサポートをしていると思うが、一つめの質問の障害者連絡協議会は続いており、議員、市の職員も参加し、学びを一緒に行っている。最近も 8050 問題について勉強会を開いた。

◆相談支援センターが竹の山にある。面談により相談のできる場所として、コーディネートのような相談が主になっている。相談支援センターに関しては、今日の重層的支援体制整備で説明したが、この中には地域づくりや参加支援という事業があり、その中で、いろいろなパターン、いろいろな方、いろんな所で居場所があるので、孤立して寂しいと感じる方等、ご意見や相談をすると良いと思う。

□大人から子どもまで聴覚障害者にとって相談窓口で専門家がいなことは相談窓口になっていない。速やかに配置してほしい。

■実態を交えて聴覚障害者ということに関しての貴重な意見であり、情報だ。

◇グループホームの食費問題で心を痛めている。

保育園の虐待問題は色々な所で規則などや保育者を増やす。

グループホームでも給与を増やせば流用しなくて済んだと思う。

国の制度があつて簡単にいかないことは分かるが、何かシステムを考えるべきではないか。

日進市としてできることで少しでも議会としての基本姿勢というべきか、知恵と工夫で乗り切れることとか、少し予算を付け加える、規則の書き直しとかで上手くいくこともいくつかあると思うので教えてほしい。

◆決算や補正予算の時に予算の分配についてしっかり見ていくことは努力すべきことである。

人員配置については、市独自でやる場合と、国がやれる範囲では、やはり法律というものは、国でしか作れない。

日進市として取り組めるものについては、一般質問や補正予算、決算の時に議案質疑で問うことができる。

教育の部分では、教員数については国・県が決めなければならないけど、指導者数では日進市独自で雇ったり、あるいは高齢者福祉になると、人員配置はある意味民間で運営されているので、雇用に関して市が口を出すことに関してはできない。しかし、監査する権限や指定更新する時に、人員が足りているか労働の部分等厳しく監査しているか聞く。また、キャリアを積むための勉強での費用、資格を取るとき 8 万～10 万円の費用がかかるが、日進市は独自でその費用を助成している。

保育園に関しても独自で補強できるところもある。

地域連携として大学と連携しており、児童福祉に関しても学芸大にて民間の人が入られるから監視する目があり、間接的ではあるがそういったところに携わるシステムだ。

□議会にずっと関心を持っており、自宅ですっと傍聴しているので、皆さんが一般質問をしているのも承知している。

新しく当選された方、新しい視点で素晴らしいと思っている。ひとつ要望させていただくと、委員会を傍聴していると発言が偏っている場面を見る。せっかく良い質問をしているので是非委員会でも質問してほしい。

傍聴システムも良くなってきているが、少し見えにくい所もあるので改善してほしい。福祉厚生委員会は、私たちの生活に密着しており、期待しているので頑張してほしい。

■予算の時に発言できる内容と決算の時や一つひとつの議案は、発言できる内容でルールがある。議論できる内容のときは委員会。過去そのように結論がついたものは数字のことだけしか聞けないというときもあるので、議員として情報発信ができればと思う。

◇10 回近く来ている。いつもは何かと注文していくが、重層的支援体制整備についての言葉が何かと出てきた。正直、何を言っているのか分からない。要するに、たらいまわしは「ダメ」だというのは分かる。

私の家族構成は、娘夫婦と孫2人と私達夫婦の6人家族で暮らしている。いろいろな課題があり、国民保険、介護保険で将来お金がすごく必要となるため心配している。孫たちもこれから先、生きて行けるのか。

福祉厚生委員会での大変大きな課題の重層的支援体制整備について、何を考えているのか教えてほしい。

◆重層的支援体制整備事業を今年のテーマにするというのが委員全員で決めた内容だ。

学んでいく上で国が進めて行く中、日進市が今、何が足りていないのかということでテーマにすべきとなった。

私達一人ひとりが上げた課題をひとつの家族の中で集約できる話もあるし、そうではなく色々なところで自分には関係ないけれど地域の人にも気づいて携わっていきたい、助けてあげたい。逆に困っているのであれば相談してほしいのにといい発想を持って決めたが、一番の問題点は、福祉において相談に行ったのにも関わらず、部署が違う、次の部署では先程の部署と言われることで心がすりきれるといふ事は実感しているので一番大事なテーマと思う。

次年度も課題として、どこまで進んでどこまで解決できたのかをやらせて頂く。

□相談できる場所が限られていて市役所に聴覚障害者の通訳がいるので、まずはそこで相談しているが、その通訳の方はコミュニケーションだけの仕事のため、対応できない時は職員に相談をしに行く。しかし、普通の職員でも相談内容があるため、時間を割くこともある。職員全員がもう少し知識をもって対応できるようにしてほしい。

□私達のように聞こえない者は、言語障害だと考えている。議員の皆さんも何年か前に、全国市区町村会議において 80%の自治体が国に意見書を提出したがそれ以降何も動いていないのが現実だ。日進市も私達、聴覚障害者への対応にまだまだ遅れているのが現状だ。今後、日進市においても聴覚障害者の言語条例を要望していくつもりだが、心配もある。聴覚障害者協会の数が少なく、長久手市、東郷町、豊明市などいくつかの市役所に対しても聴覚障害者に対して、市役所の環境改善もお願いしたい。

■窓口でたらいまわしにしない一つの例として、聴覚障害者の方達にとっても、誰一人取りこぼさないということが日進市のゴールだと思っているので、今のご意見をしっかり受けとめ今後しっかり注視していく。

□手が不自由なので市役所で書類を一つひとつ職員に書いてもらわなくてはならないので、もっと IT を活用してほしい。

■相談窓口としても実態を知ってもらいたい。

□家でも家族に書いてもらわないといけない。IT 化を是非ともやってほしい。

■総務文教委員会の方でも行っているが、市役所としても IT 化を進めて行く方向で是非とも障がいのある方が使いやすいような IT 化を検討していってもらおう。

□スマホが使えないから皆さん理解してください。

■IT 化で全てが解決するという事は勘違いであって、一つのツールとして手が不自由な方にもご意見を言って頂き、私達議員に理解させていただけた。誰一人、取りこぼさないように窓口としてやっていくという事を受け止めていく。

以上

第2部 市民と議員の意見交換会

市民建設委員会 テーマ 「持続可能なまちづくり」

～脱炭素社会の実現に向けた取り組みについて～

◇質問 ◆答弁 □要望・意見（参加者） ■要望・意見（議員）

◇和光市スーパーシティ構想にある「すべての市民の移動の自由に」について、日進市も同様の施策が非常に大事だと考える。バス停までの行き帰りが基本原則と考えるが、和光市はいかがか。また日進市では自動運転バスが渋滞を引き起こしているが和光市ではいかがか。

◆エリアによってはコミュニティバスも網羅されていない部分があり、今回専用レーンで自動運転バスが区画整理地域と駅を結ぶが、専用レーン以外は乗務員が運転操作をする。

◆和光市全域でということを進めているが、まだ一部地域という状況。拠点を軸にしてそこに全体が集まる交通網を作っていく構想である。日進市の自動運転バスをどこで走らせて行くのかというのはこれからで、来年度のくるりんばす再編、そして不十分なところをデマンドタクシーで補い、地域は自動運転バスを使うという全体的な地域公共交通構想がある。全市民の足となるかは、当委員会でもしっかりチェックしていく。

◆バス専用車線の道路下に発信機を埋め込み、直線の800m部分で自動運転を行う。バス停を軸にデマンド交通とアシスト付きシェアサイクルを組み合わせる。しかし高齢の方や有料である点で日進市には難しいと感じた。

◆説明に対応してくださった課が多く、連携してやっていくという意気込みを感じた。

◆和光市は自動運転バスを柱にして行こうと感じたが、日進市の自動運転バスはグリーンスローモビリティと言って主に住宅地内を走行するものであり、柱になるのはくるりんばすと名鉄バスだと捉えている。

◇人口比だと日進市は、和光市、所沢市の中間ということになるが、行政全般で見た場合、日進市との違いを教えてほしい。

- ◆基本的に埼玉県だと思っていない。学術研究などの拠点もあり、スーパーシティ構想の根幹をなす収入を得るための区画整理に伴う農地転用など官民で積極的に進めている印象があった。
- ◇第6次総合計画や緑の基本計画を通じても日進市の緑の維持はどのような方向に進んでいくのか見えないが、この点について所沢市の方針を教えてほしい。
- ◆前所沢市長が東日本大震災を機にマチごとエコタウン所沢と打ち出した。みどりのエコスポットなど緑の創設を行っている。
- ◆日進市においては、緑を残すべきところは残す、開発すべきところは開発するという前提で進めている。例えば平針駅から梅森へ抜ける一帯は農地から外さないという方針を持っている。
- ◇日進市は住宅地が点在しておりコンパクトシティとは程遠いが、委員はコンパクトシティを図る考えはあるか。また今後高齢化が進み税収が減少した際、安定した行財政運営の原資をどのように確保していくのか。
- ◆税収不足となればインフラの維持管理ができず、他市町村でもあるように市の中心部に集まって頂くことになるかも知れない。現状の行政サービスを維持するためにもいかに稼ぐかという視点は欠かせない。個人の税収に頼っている部分を大きい会社の誘致やふるさと納税や六次産業など市の収益になる施策を取り入れて行くことが何よりも必要だと考える
- ◆日進市の地理的に大変難しい。コンパクトシティに関する皆さんのイメージをお聞かせください。
- 視察結果をもとに市民と懇談してその結果を行政に届けるという仕組みをぜひ作ってほしい。
- ◇市職員の部署ごとの担当意識が非常に強く感じる。要望を伝えても担当外だと言われる。そのことについて議員の意見を伺いたい。
- ◆行政側のお話で、議員がお答えできるものではないが、そういった意見があることは承知している。
- ◇縦割り行政の弊害があるのではないかと。担当部署の垣根を越えて一致団結して取り組んでいったらどうか。
- ◆一致団結して考えていかなければならない問題もあることは承知している。

◇今のオンデマンドタクシー制度だと市外であると名古屋記念病院など近隣施設にも行けない。防災交通課が担当だと思うが、福祉課等と連携するなどして市外へも行ける制度となるような論議をしていただきたいが。

◆ご意見として承ります。

◇所沢市での地産地消の自家発電事業での目標値は。また日進市で取り組んだ場合の目標値や計画等はどのようなか。

◆所沢市未来電力という法人で運営しており、16万8千世帯中500世帯の契約に留まっている。小水力発電の方法には懐疑的である。この会社の従業員は1名であり、現状2名を雇用すると赤字に転じてしまうものであるとのこと。

■発電よりもまだ節電に注力していくべきではないかと考える。地中熱を使ったエアコンの導入など発電以外に他に注力していくべきではないかと考える。

◆所沢市での具体的な発電の数字は、メガソーラーで年間118万KW。池を活用したフローソーラーで44万KW。公共施設屋上を使って1000KW。遊休農地で989KW。ゴミ焼却炉で5000KW。小水力発電で233KW。

◇所沢市の計画を踏まえて、日進市ではどのようなお考えか。

◆省エネをしっかりと進めていくべきだと考える。家電を省エネモデルに買い替えていただくなど、発電ではなく節電に注力していくべきだと考える。

◇今回の視察先はどのような理由から決めたのか。

◆日進市と同規模の自治体で先進的な事業を行っている箇所というのを前提としている。

◆和光市は来る高齢化社会に対応した自立した公共交通を含めた都市づくりを推進しており、日進市でも同様の課題であるため選定した。

◆2箇所目の所沢市を選定した理由としては、世界課題でもある脱炭素。子、孫、ひ孫のことを考えても、日進市でもゼロカーボンシティを目指して行かなければならない。所沢市未来電力が経営的に上手くいっている、いっていないに関わらず、取り組みに関しては見習っていかねばならないことだと考える。現状の契約世帯数は500世帯ということであるが、皆様には自分、家族の将来を考えれば多少電気料金が高くても採用していく動きが大事なのではないかと考える。そういった理由から所沢市を選定した。

□第1部でのパワーポイントの文字が小さく見にくかった。

◆会場に来られない方向けにHP掲載を前提としています。ご意見として承ります。

◇今回の視察先選定に際して、他の理由での選定理由はなかったのか。

◆特に議論はなかったと承知している。

以上